

就業体験基に政策提言

総社市

大学生5人を 優秀賞に選出

総社市は、昨年8月10月に実施したインターンシップ(就業体験)を基に政策提言を行った県内の大学・短大生の中から川崎医療福祉大4年高谷枝里香さんら大学生5人を「優秀賞」に選んだ。

他の4人は倉敷芸術科学大2年鳥越愛加さん、環太平洋大3年石丸響一さん、県立大3年時松風紗さん、同2年下堂蘭晏純さん。

高谷さんは古いデニムマスクやジーンズを市役所で回収し、ペット用品に再生する事業を通じて障害者就労を進めるアイデアを考案。17日に市役所で表彰式があり、片岡聡一市長が表彰状を手渡した。4月から総社市職員として働く予定の高谷さんは「政策提言の難しさを実感し、成長の糧になった」と話した。

市役所や新型コロナウイルスウィルスワクチンの集団接種会場などで行われたインターンシップには7大学・短大から過去最多の90人が参加。参加者が自らの就業体験から考えた政策をそれぞれ発表し、市の幹部らが独創性や実現可能性などを評価した。

他の4人にも順次賞状が贈られた。

片岡市長(左)から表彰される高谷さん



(久万真毅)